



北方領土返還要求キャラバン隊出発式 北方領土返還運動の熱意を訴えるため、高校生によるキャラバン隊が広島市へ出発しました。「ひろしま北方領土展」では、自らが体験したビザなし交流の様子などが熱心に紹介されました。(11月12日:市役所)



浜の母ちゃん直伝根室のおさかな漬物教室 3年目になる根室おさかな普及委員会の漬物教室に、今年もおいしい漬け物と意気込む主婦の皆さんが、市内4漁協女性部の指導による紅鮭の飯寿司などの漬け方を学びました。(11月9日:総合文化会館)



北方領土返還運動テーマソング収録 根室青年会議所が制作を進めていたテーマソング「みんなのココロ」が完成。合唱パートの収録では、元島民など約90人が返還の願いを歌に込めて熱唱しました。(11月1日:ニホロ)



第11回根室市民楽しいピンポンの集い 親子などで気軽に参加できる卓球大会が開催され、32人の選手がゲームを楽しみました。息をのむようなラリーやスーパーショットも見られ、会場は歓声に包み込まれました。(11月23日:青少年センター)

春国岱原生野鳥公園 ネイチャーセンター

NCC通信

〒086-0074
根室市東梅103番地
☎25-3047

冬の赤い小鳥たち

日増しに寒さも厳しくなり、根室に長い冬がやって来ました。木々は葉を落とし、枯れた草の穂が冷たい風に寒そうに揺れています。まるで、色を失ってしまったかのような荒涼とした冬景色に、鮮やかさを添える赤い色の冬の小鳥たちがやって来ます。

赤い色をした小鳥たちは、根室にやって来る多くの小鳥たちの中でも、特に目を引く存在です。頭のてっぺんだけが赤いベニヒワやピンク色のお腹のハギマシコ、真っ赤な体をしたギンザンマシコなど、赤い鳥と一言で言っても、その色彩はさまざまです。

ハギマシコやギンザンマシコなど、マシコとつく鳥

は数種類おり、漢字では「猿子(マシコ)」と書きます。これは、猿(サル)の顔が赤いことから付けられたものです。ハギマシコとは、萩(ハギ)の花のような色をした鳥で、お腹のピンク色を萩の花に見立てられ「萩猿子(ハギマシコ)」と呼ばれるようになったそうです。

これらの日本で見られる赤い鳥の多くは、アトリ科と呼ばれる鳥の仲間で、太いくちばしを持っています。彼らはこのくちばしを使って、木の実や草の種を砕いて食べているのです。

12月にはネイチャーセンター前にも、ヨモギの種を食べにベニヒワがやってきます。ベニヒワやハギマシコは小さな群れで移動するので、スズメほどの大きさの小鳥の群れを見かけたら、よく観察してみてください。

根室の実りを糧に、冬を乗り切るたくましく美しい小鳥たちに出会えるかもしれません。

(レンジャー 大熊 千晶)

